

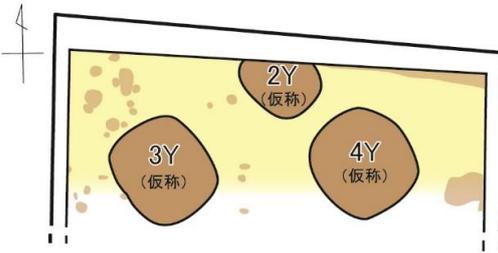


氷川前遺跡第99-1地点 発掘調査速報

作成日：2023.10.20
富士見市教育委員会
生涯学習課 文化財G

— ③ 令和5年10月16日～20日 —

10月第3週から、遺構の掘り下げ作業を開始しています。作業の主な対象となったのは、調査区の北端に位置する弥生時代の竪穴住居跡3軒(仮称:2Y・3Y・4Y)です。いずれの住居跡でも掘り下げは継続中であり、弥生土器などの遺物が住居内から出土しています。



弥生時代の住居跡 2Y(仮称)の掘り下げの様子



遺物が出土した様子



出土した弥生時代の壺



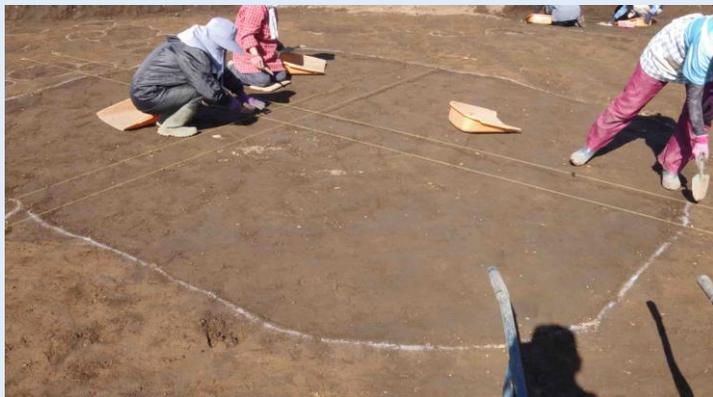
住居跡の床面に埋設された
弥生時代の甕
写真上:上面 写真右:断面



弥生時代の住居跡である2Y(仮称)を掘り下げたところ、弥生時代の壺の破片が出土しました。ボタン状に貼りつけた粘土や、赤色の塗料で装飾されているものも見られます。また、下半を埋め込むようにして、住居の床面に埋設されたとみられる土器も確認されています。

弥生時代の住居跡である3Yおよび4Y(いずれも仮称)は、遺構が検出面された高さから、住居床面までの掘り込みがやや深い住居跡でした。

掘り下げにあたっては、住居内に堆積した土の一部を「ベルト」として土手状に残しておくことで、住居跡に土がどのように堆積しているかを観察し、記録することができます。



掘り下げ開始時の写真。ベルトをかける場所に黄色い糸(水糸)を張って、区画している。
写真左：3Y(仮称) 写真右：4Y(仮称)



3Y(仮称)をベルトを残して掘り下げた状態。土がどのように堆積しているか観察できる。



3Y(仮称)から弥生時代の「台付甕」の破片などが出土した様子



参考：市内南通遺跡出土の「台付甕」